



一万時間

独裁国家ならではの大人海戦術で開幕した北京のオリンピックも八月二十四日に何とか閉幕を迎えた。

チベット暴動、新疆ウイグル自治区での過激派による爆弾テロ、更には海外からの取材記者への暴行、拘束など、中国が掲げた「一つの世界、一つの夢」は大きく傷ついたが、史上最大級の参加選手の奪斗で世界新記録も続出し、多くの感動的場面が生まれた。

なかでも陸上百・二百メートルでいずれも世界新の二冠に輝いたジャマイカのボルト選手、水泳競技で八冠に輝いたアメリカのフェルプス選手、百・二百メートルの平泳ぎで二連覇を成し遂げた日本の北島選手、女子ソフトボールで二日間にわたり三試合で四百十三球の連投によって五輪公式競技として最後となる金メダルを獲得した日本の上野選手達の活躍はいずれも五輪史に刻み込まれる一大金字塔であった。

かれら参加選手の鍛えられた肉体の躍動と華麗な演技の数々は、人類の身体的能力の限らない進展を予測させ、凡人から見れば、彼等、彼女等の遺伝的に優れた素質と天賦の才能を感じざるを得ないものがあった。

しかし、「成せばなる、成さねばならぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり」の古語にある如く、アマチュアなど人を全くよせつけないプロフェッショナルの人達には、知られざる努力の日々があることを見逃してはなるまい。

このことについて八月二十一日付の日経新聞夕刊の「あすへの活躍」のコラムに分子生物学者の福岡伸一氏を書いておられたことが印象的であった。氏は、「プロフェッショナルたちの多くは皆、ある特殊な時間を共有している」として、プロフェッショナルたちがいかに形成されたかについて一つの調査を紹介している。

すなわち、スポーツ、芸術、技能いずれの分野でもプロフェッショナルとなった彼等、彼女等は、幼少時を起点として少なくとも一万時間、例外なくそのことだけに集中し専心し、たゆまぬ努力をしているというのだ。

一日三時間練習をしたり、レッスンを受けるとして一年に一千時間、それを十年にわたってやすまず継続している。

かつて発明王エジソンは「発明」は九十九のパースピレーション（汗）とインスピレーション（ひらめき）で成り立つと喝破したが、まさに孜々営々とした努力の継続がプロフェッショナルを生むのである。DNAのなかには天才という遺伝子はなく、天才は「氏より育ち」であって、努力する環境の中から生まれてくる。

そうであって見れば、我々凡人の日常の仕事について考えてみても、各人が一万時間の努力を十年間続けていけば、必ずや人々が仰ぎ見る成果を挙げることができるのではなかろうか。

自信をもって、少なくとも一日三時間、自らの技能能力の向上に資するための努力を積み重ねて、仕事の蘊奥を究めたいものである。